区のお知らせ

足立区

足立区千住一丁目50
☎ (882) 1111
編集・発行/足立区役所

長期計画特集

- ▷15か年計画
- ▷これからの足立区の方向
- ▷新しい足立区を築く豊かな施設
- ▷調和のとれた住みよい足立
- ▷みんなで手をつなぐ明るい足立

消費者相談

衣類や食品など、商品の品質やサービス内容に疑問や不審な点がありましたら、ぜひご相談ください。消費者の立場で係員が解決にあたります。おいでの際、なるべく品物をお持ちください。▶相談窓口→区役所1階経済課商工係

長期計画審議会、答申

十五年後、人口八十万を想定して 魅力あふれる足立区に

東京都足立区長期計画審議会（会長田ケ谷治助氏）は、区長から諮問をうけていた「足立区長期計画」につき、一年十か月にわたって審議した結果、去る二月末、今後十五年間、足立区の進むべき方向を示唆した答申を行ないました。

この審議会は、学識経験者十二名、区議会議員十三名、区職員十名の計三十五名をもって構成され、学理的、調査専門研究は、東京工業大学の石原研究室（石原舜介教授）があたりました。

答申書は、区民の意向調査をもとに、各種データ分析によって作成されたもので、序章「長期計画と足立区」、第一章「新しい足立区を築く豊かな施設」、第二章「調和のとれた住みよい足立」、第三章「みんなで手をつなぐ明るい足立」、あとがき「考える区民に行動する行政」にわかれており、立体的な構想を打ち出しています。その内容の要旨は次のとおり。

長期計画の役割

首都圏の人口増加は年々激しさを増している。その発展があまりにも急速なため、生活環境の整備や行政サービスの充実を図ることができず、各所に歪みを生じている。

足立区も例にもれず、現在の矛盾の多くは人口の激増に対応し得なかったことに起因している。そこで、この矛盾点を区民と共に探し、新しい環境へいかに対応していくかを考えたうえで、区民の将来の生活像を浮き彫りにし、その目標を定めるのが、この長期計画の役割である。

□将来人口の推計

長期計画を考えるに当って、基本的な指標の一つに人口規模がある。足立区は住宅を中心とした区であるため計画の基本は生活環境の整備である。その基礎となる定住人口をいくらに推計するかということは特に重要である。そこでさまざまなデータをもとに、この計画においては、昭和六十年時点の人口規模を八十万人とすることにした。このような予測にたって調和のとれた開発を基礎に置くと支出が多くなり、決して楽な数値ではないが、将来の地区内全域の均衡ある発展を期待して、諸計画を立案し、行政的に安全性を見込むことにした。

第1章　新しい足立区を築く豊かな施設

足立区は公団や都住など公共住宅供給に主要な役割を果し、一方民間の手で健全な市街化を積極的に進めてきている。ところが、これらの事業による人口の増加や交通機関の整備などが原因し地価が高騰し、人々は足立区を越えて埼玉、千葉両県へと流れ、このため人口の分布が公団等の高密度の居住地と未開発の農地というように密の差が激しく、施設整備の上で大きな障害となっている。

一方、東京都の文化、経済、娯楽など広域的で魅力のある施設は中心区部にあり、人口五十七万以上もありながら、これらの施設整備が遅れているため、区内に住む人々は不便を生じている。そこで、他に依存する度合を少なくして、独自の発展をより高めていくには、もう少し広域的サービスを行なう中心的施設を整備して区民によりまとまりのある生活を楽しんでもらう必要がある。したがって、区の質を転換させる時期にきていると思われる。

■魅力あふれる中心地区

魅力のある中心商店街というのは、健康で明るい娯楽施設、静かで清潔な食堂街、安価な駐車施設等がとっている商店街のことで、現在、歩行者天国に代表されるような安全で楽しい買物ができるショッピング・センターが要求されている。このような中心商店街は、区の中心地に立地し、区民が利用しやすいように、交通機関の整備、街区の再開発を行なうことが望ましい。

北千住は、古くから区の中心地として、規模の大きい店舗が進出しているが、駅前広場がせまく混乱をきたしている。そこで、駅前広場の整備、駅ビル、歩行者専用のデッキの建設などで、より高度な商店街へと脱皮していくことが望ましい。

また、人口の増加は堤北地区に集中しているので、日光街道と環七が結びつく西新井駅付近を新しい中心地区とし、広域的な公共的施設、たとえば、北千住と補完しあう中心商店街、中央図書館、交通災害病院、小児総合病院、福祉会館、中央区民館、行政センター、娯楽施設等の建設や誘致を行なう必要がある。この地域への足としてはモノレールを誘致したり、バス網の発達をうながす。

この北千住、西新井に準ずる中心街として、東武線竹の塚駅を中心とした地域と、常磐線綾瀬駅前の地域とを整備する。

これら四つの地域が、区民の中心的な拠点となるようにすることが考えられる。

このような既存市街地に対する大規模な再開発は、多くの困難が伴うので、地元の積極的な協力が得られなければ実現し得ない。区もまた地元商店街を指導して再開発の方向、融資のあっせんなど、地元が動きやすいように協力していかなければならないだろう。

▼緑に囲まれた楽しい公園

都市における公園の役割は、はかりきれないほど重要である。児童の遊び場から自然公園まで、いろいろな公園を必要とする。足立区のように田畑をつぶして市街化したところは、豊かな自然の緑に飢えている。

あふれた公園を新しく造っていく必要がある。また、東京オリンピックを契機に、都市の空気清浄化、景観など、大きな効果をあげるだろう。

特にこの地域には車両の集中する流通センターを建設中であり、失われる自然に対応して、自然環境を強調する役割はきわめて大きい。

このため、舎人町に森林公園と運動公園をかねた、八〇ヘクタールの大公園が計画されている。スポーツ愛好の青少年は、窓口に早朝から行列をして運動場のとりあいをしていることからみても、この総合運動公園の計画による期待は大きい。一方、森林部分は、家族のピクニックなど慰安のためにも、都市の空気清浄化、景観など、大きな効果をあげるだろう。

▼豊かな教養を培う施設

現在足立区には、短大、大学などの上級学校がない。一方、人手不足は男子だけでなく、女子についても同様であり、今後女子の教養と訓練の向上が要求されるであろう。

とうしたことから、地元雇用の促進と安定雇用の増進のためにも女子短期大学の誘致は是非必要であり、さらに高専の設置も、一つの目標として有効だろう。

社会人の研究資料のための図書館の充実は、全国的な課題である。足立区には四つの図書館があるが（現在は図書館六、学習室六）、まだ十分ではない。学習のための図書館の機能を発揮するよう、総合的システムに従ってきめ細かく配置しなければならないだろう。

また、中央図書館を充実させ、コード・ライブラリーや映画の保存、美術・博物の展示、保管も必要で、これら複合機能をもつ施設の建設は、学生の間、都心からの直線距離の割にはかかっている。

そこで想定される路線として、まず地下鉄九号線を延長して吉川町まで敷設し、花畑町方面の便利をはかる。また、国鉄王子駅から堀之内、鹿浜を経て鳩ケ谷まで地下鉄を新設する。これによって、区の西部、沼田町、鹿浜町、加賀町、入谷町、舎人町の便利を皿沼町、入谷町、舎人町の便利をはかる。一方、大塚方面から西新井の東側をとおり春日部に至る新地下鉄線を考える。この新設線で今まで不便だった小台、本木町を救い、古千谷町、伊興町の発展を促進させる。また、これらの放射状の路線に対して、区内の交通を円滑にするために、環状線として環状七号線にモノレールを敷設することも必要となろう。

これらの各鉄道線は東京都の立場からも敷設が望まれるところであるため、この計画を関係方面に提示し、希望の路線が実現するよう努力すべきである。

一方、自動車交通においては、都市計画街路の整備不足によって通過交通が一線に集中し、河川の分断もあって、北千住付近のラッシュ時における交通渋滞はひどく、東京でも指折りの難所になっており、通勤に自動車を用いることを不可能にしている。そればかりか、北千住地区の過密状態は不可能にしている。そればかりか、北千住地区の過密状態は不

▼総合・専門病院の誘致を

足立区の病院ベット数は、東京都の平均以下で不十分である。したがって大規模な総合病院と専門病院の誘致が必要である。

総合病院については、現状に適したオープン・システム（外部の医師などが病院の施設を利用できる制度）を検討導入することによって、より高い医療水準を確保で きる。

専門病院については、特に、こどものために、生まれる前から成長するまでの過程で、常に健康を見守っていける小児専門総合病院、救急の際いつでも受入れられる脳外科を中心とした交通障害専門病院の設置は、安心して日常生活を送るうえでぜひ必要である。

以上のような病院は、国立、または都立病院として誘致することにつとめ、広く東京東北部の地域住民の利用を中心に計画する。

■便利な生活を築く交通

現在の足立区における高速鉄道網は、常磐線、東武伊勢崎線・大師線、京成成田線、地下鉄日比谷線・千代田線と六本入っているが、東武伊勢崎線（地下鉄日比谷線）以外は、区の一部を横切っているにすぎず、東京都の他区と比較して、鉄道の密度が低い状態にある。このため、都心への通勤者は、東武鉄道沿線を除いてバスを利用するなど通勤時間が、都心からの直線距離の割にはかかっている。

そこで想定される路線として、まず地下鉄九号線を延長して吉川町まで敷設し、花畑町方面の便利をはかる。また、国鉄王子駅から堀之内、鹿浜を経て鳩ケ谷まで地下鉄を新設する。これによって、区の西部、沼田町、鹿浜町、加賀町、入谷町、舎人町の便利を皿沼町、入谷町、舎人町の便利をはかる。一方、大塚方面から西新井の東側をとおり春日部に至る新地下鉄線を考える。この新設線で今まで不便だった小台、本木町を救い、古千谷町、伊興町の発展を促進させる。また、これらの放射状の路線に対して、区内の交通を円滑にするために、環状線として環状七号線にモノレールを敷設することも必要となろう。

これらの各鉄道線は東京都の立場からも敷設が望まれるところであるため、この計画を関係方面に提示し、希望の路線が実現するよう努力すべきである。

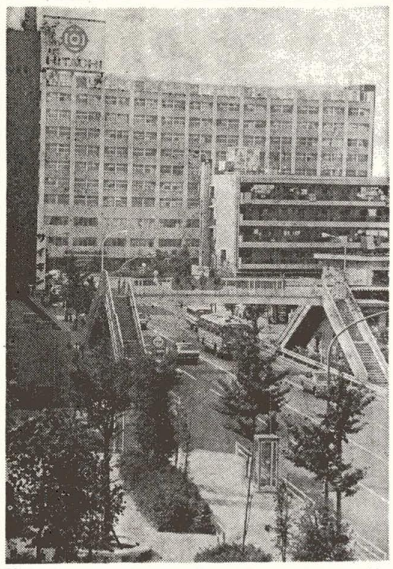
一方、自動車交通においては、都市計画街路の整備不足によって通過交通が一線に集中し、河川の分断もあって、北千住付近のラッシュ時における交通渋滞はひどく、東京でも指折りの難所になっており、通勤に自動車を用いることを不可能にしている。そればかりか、北千住地区の過密状態は不

現在の足立区における高速鉄道網は、常磐線、東武伊勢崎線・大師線、京成成田線、地下鉄日比谷線・千代田線と六本入っているが、東武伊勢崎線（地下鉄日比谷線）以外は、区の一部を横切っているにすぎず、東京都の他区と比較して、鉄道の密度が低い状態にある。このため、都心への通勤者は、東武鉄道沿線を除いてバスを利用するなど通勤時間が、都心からの直線距離の割にはかかっている。

そこで想定される路線として、まず地下鉄九号線を延長して吉川町まで敷設し、花畑町方面の便利をはかる。また、国鉄王子駅から堀之内、鹿浜を経て鳩ケ谷まで地下鉄を新設する。これによって、区の西部、沼田町、鹿浜町、加賀町、入谷町、舎人町の便利を皿沼町、入谷町、舎人町の便利をはかる。一方、大塚方面から西新井の東側をとおり春日部に至る新地下鉄線を考える。この新設線で今まで不便だった小台、本木町を救い、古千谷町、伊興町の発展を促進させる。また、これらの放射状の路線に対して、区内の交通を円滑にするために、環状線として環状七号線にモノレールを敷設することも必要となろう。

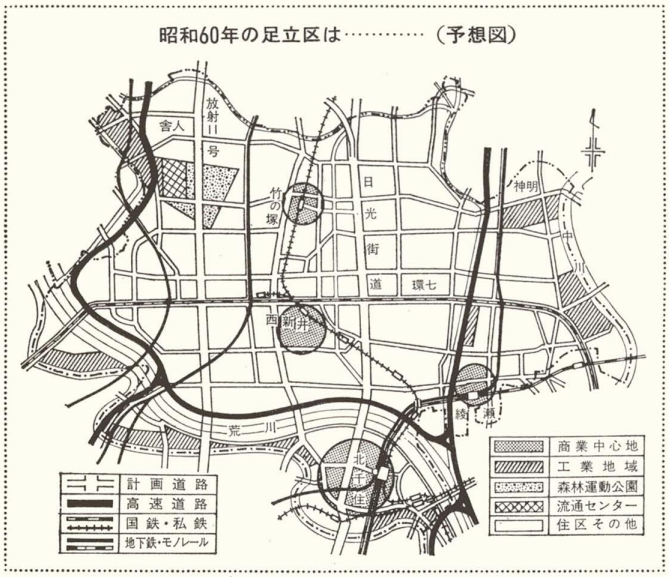
これらの各鉄道線は東京都の立場からも敷設が望まれるところであるため、この計画を関係方面に提示し、希望の路線が実現するよう努力すべきである。

一方、自動車交通においては、都市計画街路の整備不足によって通過交通が一線に集中し、河川の分断もあって、北千住付近のラッシュ時における交通渋滞はひどく、東京でも指折りの難所になっており、通勤に自動車を用いることを不可能にしている。そればかりか、北千住地区の過密状態は不



計画によって生まれた街は安全で美しい。竹の塚駅付近

昭和60年の足立区は……（予想図）



▽効率の高い活動を導く土地利用

足立区の現状をみると、商業、工業、住宅が混在している地区が多く、環境を悪化させている。

このため、工業地を河川の沿線だけにしぼり、さらに川口市との県境に新たな工業地域を設定して川口市と連帯させるようにする。一方、足立区の中心となる地域に散在している工場を工業地帯に移し、その跡地を開発の基地にしたり、防災の拠点にしていく。

快適で安全な町づくり
区の体質をみんなで改善

第2章　調和のとれた住みよい足立

住宅を中心とする区を目指す足立区としては、身近かな生活環境施設の体系を整え、よりよい住宅地を造成するよう導びくことが大切である。

したがって、生活環境の整備については、小学校区を地域生活共同体（コミュニティ・住区）として、住民に必要な施設をバランスよく配置し、社会生活のうえからも地域集団の単位となるようにする。

▼調和のとれた街

今後予想される人口増に伴ってそれへのサービスのための公共施設の整備は、区財政の上に大きな負担となることは明白である。

こうしたことから、人口の急増する地域、すなわち計画団地については生活環境の施設的水準を確保するために、一部、施設負担としてもらうような方式をとり、特に教育施設の用地に対する手当を立区としては、身近かな生活環境施設の体系を整え、よりよい住宅地を造成するよう導びくことが大切である。

したがって、生活環境の整備については、小学校区を地域生活共同体（コミュニティ・住区）として、住民に必要な施設をバランスよく配置し、社会生活のうえからも地域集団の単位となるようにする。

▼調和のとれた街

今後予想される人口増に伴ってそれへのサービスのための公共施設の整備は、区財政の上に大きな負担となることは明白である。

こうしたことから、人口の急増する地域、すなわち計画団地については生活環境の施設的水準を確保するために、一部、施設負担としてもらうような方式をとり、特に教育施設の用地に対する手当をさせることが望ましい。

各住区に対する施設の設置については、次のような順序によって要求が高まると思われるので、

①小学校適正配置・児童公園整備
②小・中学校施設整備
③公立幼稚園適正配置及び施設整備
④保育所整備
⑤遊歩道計画
⑥社会教育施設計画
⑦医療施設計画
⑧老人・身体障害者施設計画

を逐次解決していくことが望ましい。これらの公共施設の整備にともなって、商店等の民間施設の整備が行なわれるが、住区を構成するのに適正なように、立地指導していくことが必要であろう。

緑のある安全な歩行者専用路（緑道）

自動車交通の激増は、人びとを一方、駅、バス停、小中学校、幼自動車の危険から守りきれずに、稚園、保育所、商店、児童遊園に多くの交通事故を引きおこしている。商店街においては、安心して買物もできず、通学には、先生も両親も一時として安心することができない。現在、歩行者のための専用道路の意義が主張され始めたのは、これらの状況への悲痛な叫びであるといってもよい。

計画では、幹線街路の整備により通過交通を細い街路には入れなしてもらうようにし、交差点を整備する。

立錐の余地もないほど密集した北千住地区

▼一貫した教育

現在の教育体系は、小中学校の義務教育を中心に計画されているが、今後は、幼児教育から高等学校程度までは、地域において平等に教育を受ける機会が与えられるようなシステムが必要である。

このためには、人口の定着に合わせて適正なクラス数を配置するように、短期間の計画を立てながら長期計画に合致するように考える必要がある。

▽幼稚園は、小学校区に標準二か所として、長期目標で整備する。

▽小学校は、一校二十四クラスを標準規模とし、児童の多い地域では最大一校三十クラスに、昭和五十年までの中期目標、昭和六十年までの長期目標を達成する。

なお、小学校区と住区（コミュニティ）とは、一体的に計画していく。

▽中学校は、一校二十四クラスを標準として、二小学校に一の割合で昭和六十年目標で計画的に配置する。

▽高等学校については、現在普通科高校五、職業科高校三、計八校あるが、さらに、積極的に高等学校を誘致することが必要である。

▽特殊教育については、特殊学級の内容を充実させ、幼稚園から高等部まで一貫した教育ができるように計画する。現在区内にろう児教育施設と精神薄弱児の進園施設があるが、まだ不十分である。

▽社会教育としては、図書館、区民館、青年館、児童館、公会堂、屋内運動場、グランドのセットの施設を計画し、学校教育施設と相互関係がとれるように配置する。

▽上級の学校教育については、短大及び工業高専の誘致を積極的に図る。

▼便利で楽しい商店街

足立区民が買い物する場所を調べてみると、東の中川地区、西の鹿浜地区ではほとんど区外で買物をしている。また、東武伊勢崎線沿線の人々をいかに誘致するかが課題であるのに、竹の塚駅、西新井駅周辺に住んでいる人々は、都心部で買物するのが目立って多く、北千住駅は都心部に行くための通過駅、または乗り換え駅でしかない状態となっている。これからの小売商業施設計画をたてていくうえで、この点をもっとも重要視していかねばならない。

それには、周辺部を計画的に開発して区外で買物をすることを食い止めるようなサービス向上、さらに、区の中央部の商業施設の力を一層強めて、埼玉県方面からの誘致を図る。

現在商業の中心地は北千住一か所に限られているが、これ以外に三か所の小売商業中心地をつくりバス路線や鉄道を集中し、現利用に不便な地域も、結びつきを良くして、簡単に利用できるようにすることが望ましい。

新らたな商業中心地には、足立区の文化・教養の中心となる施設をも集め、人びとの生活の利便性を向上させるとともに、ショッピングをより楽しいものとしていくことが望ましい。

住区（コミュニティ）とは

小学校区を単位とし、幼稚園、保育園、児童公園、近隣公園、集会場、商店、医療厚生施設などが互いに便利に利用できるように配置された地域をいう。

このコミュニティ・センターの計画的建設によって、地域住民の社会的結束が強まり、生活環境の維持、向上もしやすくなると考えられる。

これらの各施設の網が互いにうまく地域にかけられることによって、調和のとれた街が形成されることになる。

■安心できる医療の体系を

現在の医療は、社会構造の変化、医学の発展の中で、医療需要が質量ともに増加し急速な専門化が進行している。このため保険医療制度や診療データの抱え込みなど問題点も多い。

何よりも確立しなければならないのは、いつどこでもすぐ診療が受けられ、困難さに応じて、高度の専門医に治療が受けられる体系である。このため、診療所の充実、整備を重点に、専門病院として交通障害病院、小児総合病院を設置し、総合的医療水準の向上を確立して、地盤が低く、常時排水場によったりすることも必要である。

▼健康で快い供給処理

現在、わが国における下水道の施設水準は欧州国とは思われないほどの低さであり、その整備を急がねばならない。当区は、堤南地域が昭和四十五年にやっと下水道甲地区の指定区になっただけで堤北地区は排水の状態である。当区は四方を河川で囲まれた平坦地で、地盤が低く、常時排水場によったりすることも必要である。

供給と処理サービスを受けられるよう開発を抑制したり、促進させその育成につとめる必要がある。

区は、今後も、清浄そ菜集団圃場育成事業や、花卉促成栽培モデル圃設置事業や、鉢花栽培普及事業等もろもろの事業を進め、農業の近代化に力をかし、農地の統廃合を積極的に進めて、農業を持続する環境をつくると同時に、都市的職業へすみやかに転換できるように、希望者には優先的に職業訓練や商売を始める人々には経営技術の講習会などを開き、その道を講じる必要がある。

密集とまばらが点在している堤北地区。北宮城町上空から

第3章　みんなで手をつなぐ明るい足立

健康で文化的な生活を顧っても、思わぬ不幸にあう人も多い。これらの人たちを助け励ますことは、社会人として大切である。

また、災害や公害に対して住民は各自の行動を律しながら、不測の事態に対処しなければならない。つねに環境を監視し、公共機関に働きかけ、また、公共の対策を応援し、欠陥を正していくことは地域住民の大きな役割である。

このような住民の積極的な活動は、社会福祉施設と相まって青少年の不良化防止、災害の防御、障害者の社会復帰等、地域生活の向上に良い結果をもたらすだろう。

▼きれいな災害のない街

北千住地区、梅田・本木地区は木造の密集地域で、しかも軟弱地盤であるため、一たび大地震が発生すると、倒壊家屋も多く、その被害は膨大となり、多数の死傷者が発生するおそれがある。したがって、住宅地区改良事業や、都市再開発事業を計画的に行ない、健康で文化的な生活の営める住宅地を逐次拡大していくことが望ましい。このため、特に重点的に計画的に再開発する地区には、周辺地区からの避難可能のように、大度の性能を持たせるようにする。

■老人・児童・母子に十分な福祉

▽児童の福祉の増進は、今日行政に求められる最重要な課題である。特に、今後十年間における住宅の建設と働く婦人の増加のため、保育需要は飛躍的に増大することが予想される。そのためには、保育施設の充実と、数住区を単位とした児童館の計画と、これを核とした児童の身障者のための収容施設の建設、ホームヘルパーの増員等も必要である。

これらの施策を推進するには国や都の協力と援助が不可欠である。

▽昭和六十年には老齢人口が十八%に達する。老後の生活は決して恵まれたものではない。これらの問題に対しては、生活や健康などの相談・後退機能の回復訓練・レクリエーションなどの事業を行なうための老人福祉センターや日常気軽に楽しみながら一日をすごすことのできる地域老人館の設置、また、寝たきりや独り暮らしの老人のためのホームヘルパーやカウンセリング等が一層充実されなければならない。

▽区内の母子家庭は、約五二〇〇人のためのホームヘルパーやカウンセリング等が一層充実されなければならない。

▽農家の生活改善に力ある施策

都市化による農業への圧力が強くなってきても、長い間農業で生活してきた人々が、簡単に都市的な職業に再就職することはむづかしい。このため、農業の体質を改善して都市近郊に合った花の栽培など耕地をまとめ、建設省、農林省で構想している市街地区域の穴抜き的都市緑地を適正に配置し

■心身障害者に温かい教育

盲者、ろうあ者、精神薄弱者、肢体不自由者、その他病弱者のうち教育可能な者は特殊教育を受けられる。そのうち軽微なものは、通常の学校の特殊学級において教育を受けている。

特殊教育が本来の目的を達成するには、その障害の程度に応じた特別の指導と、障害を保護し、克服するための施設、設備、備品が必要であり、また有能な教育者、社会に出てから相談相手となるソーシャル・ワーカーが多数必要である。

これら障害者に対しては、初等教育から職業教育まで一貫した教育が必要とし、また、社会変化に対応する能力が劣っているのであるから、社会への参加の後も援助と保護を手厚く、すべての面にわたって総合的に行なう必要があり、そのための施設、必要な人員の養成施設の建設を進めて行かなければならない。

■考える区民に行動する行政

長期計画を実現する過程は長く、生活環境を維持していくことは、建設することよりも困難が伴う。区民は、不断の環境悪化への防止の努力を払う必要があり、また、区行政は、複雑な国・都・区・民間の各政策に対して、積極的に働きかけて、足立区の調和をみだすことなく、環境水準の向上に努力しなければならない。区行政は、直接の事業主でない場合が多いだけに、根気と熱意をもって事業主を説得することが必要である。そのためには、区民の環境に対する関心をかん起し、維持させるために、新しい視点にたった自治組織の育成、環境悪化の防止策の広報活動などを積極的に進める必要があろう。

■みんなで守る公害のない街

都の公害陳情統計によれば、足立区における公害は、悪臭、排水より、騒音、振動に対する苦情が多い。騒音は工場はかりが発生源ではないが、資金不足のため生産設備のほかに投資を行なえない小規模の工場が住宅と混在している結果によるものだろう。

これらは、再開発による用途地域の純化とともに、公害発生工場の集団化、協業化を進める一方、公害対策設備費の補助等積極的な対策をとり、小零細企業の近代化と育成を図るべきである。

自動車については、大気汚染と騒音の問題がある。これらは、道路整備が公害減少に役立つことはもちろんであるが、幅員拡張と同時に交差点の改良が、公害問題についてより重要となろう。

公害については、全住民の協力が必要であり、区もまた公害の実態をよく把握して、苦情を迅速に処理できる機構を確立すべきである。

規模な公共空地を積極的に設ける必要がある。

その候補地としては、工場跡地の利用を考えて、千住橋戸町と西新井地区を防災拠点として整備し、江東地区で考えられている程度の性能を持たせるようにする。

以上のような長期計画の答申にもとづき、区では、財政とにらみ合いつつ、短期あるいは中期の実施計画を綿密に立案し区議会とともに、一歩一歩進めてまいります。

この計画を書に終らせないために、区民のみなさんのご支持とご協力をお願いいたします。

さあ、あすの足立へ！今年はその第一歩です。